

ノークリサーチ Quarterly Report

2010年 正月版
Vol 010

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

2010年中堅・中小企業が取り組むべきIT活用のポイント

株式会社ノークリサーチ(本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705:代表伊嶋謙二03-5244-6691 URL:<http://www.norkresearch.co.jp>)では、2009年に実施された調査結果を総括し、2010年に中堅・中小企業が取り組むべきIT活用のポイントについてとりまとめた。

2010年はこれまで「ノーク伊嶋のSMB短観」として発行していた四半期毎に実施する定点観測調査を新たに「ノークリサーチ Quarterly Report」へと刷新し、中堅・中小企業におけるIT投資動向に関するより実践的な調査結果速報を伝えていく。「ノークリサーチ Quarterly Report」は四半期毎に発行(2月、5月、8月、11月)

厳しい経済環境を逆に生かし、今だからこそやっておくべきことがある

- ▼IT投資削減で余裕のできた時間と人材は、自社の現状把握を進めるために生かす
- ▼既に実施済みのコスト削減施策を業務効率改善へとさらに活用することを検討する
- ▼IT活用での導入/運用コストを軽減するための手段はクラウドやSaaSだけではない

2009年後半からは大企業を中心にIT投資が徐々に復調しつつある兆しが見えているが、それらが中堅・中小企業にまで波及するにはまだしばらく時間がかかりそうだ。ノークリサーチが四半期ごとに公表している「中堅・中小企業IT投資DI」(四半期毎にIT投資予算額がどれだけ増減するかを尋ね、「増える」と「減る」の差でIT投資意欲を指数化したもの)がプラスへと転じるのは2010年5月以降になると予想される。

そうした厳しい状況の中、中堅・中小のユーザ企業はIT活用に対してどのようなような姿勢で臨むべきなのか?これまでの調査結果を踏まえると、以下の3つが最重要ポイントとして浮かび上がってくる。

【IT投資削減で余裕のできた時間と人材は、自社の現状把握を進めるために生かす】

IT投資を削減した結果、多くの中堅・中小企業ではITを担当する人材に若干ではあるものの時間的な余裕が生じている。これを単なる余剰コストと捉えるのではなく、与えられた時間を有効に使うという発想の転換が大切だ。中堅・中小企業は長年「部分最適、短期視点」でのIT投資を繰り返してきた。その結果、自社の情報処理システムは規模と比較すると複雑であり、システムの状態やデータの所在を把握することが困難な状態となっている。これを打開するために、今ある時間と人材を自社の現状把握へと向けるのである。また、それを後押しするための状況として以下の二つが挙げられる。

・ベンダやSIerによる無償でのアセスメントサービスの提供

ユーザ企業のIT投資削減を受け、ベンダやSIerは「ユーザ企業がコストをかけずにIT投資の実現可能性や妥当性を判断するための無償アセスメントサービス」を提供している。通常であれば費用や手間のかかる試験的導入を手軽に実施するチャンスといえる。景気が回復した後に慌ててコストをかけたIT投資判断を行うのではなく、コストをかけずに時間的余裕を持って検討を進められる時期であるといえる。

・改正省エネ法の施行やIFRSの任意適用開始といった法制度上の変化

改正省エネ法によるCO2排出量把握の必要性やIFRSによる会計システムの刷新は自社の現状を見つめ直す良い機会となる。中堅・中小企業ではこれらの法制度の対象外となるケースも多く、実際にこれらの法制度へ対応するための取り組みが多くを占めるわけではない。だが、ベンダやSIerからは関連する無償サービスも提供されている。法制度の対象にならない場合であっても、これらのサービスを活用することで自社の現状認識に役立てることができる。

このように「社内の時間と人材に若干の余裕がある」「ベンダやSIerが無償アセスメントサービスを提供している」「法制度の変化」といった要素は中堅・中小企業が長年手付かずだった情報処理システムの現状把握へ取り組むための後押しをしていると捉えることができるのである。

【既に実施済みのコスト削減施策を業務効率改善へとさらに活用することを検討する】

厳しい経済環境の中であっても、即効性のあるコスト削減施策は中堅・中小企業においても受け入れられやすい。具体例の一つとして挙げられるのがWeb会議の活用だ。出張旅費を削減できるWeb会議は国内に複数の拠点を持つ企業を中心に中堅・中小市場でも注目度の高いソリューションの一つである。しかし、単なる出張旅費削減に終わってしまった場合は、せっかく導入したWeb会議のメリットを生かし切れていない。Web会議の製品/サービスには複数人でドキュメントを同時に閲覧/編集するといった機能を持つものも多い。それらを活用すれば、確実かつ鮮度の高い情報共有や意思決定の迅速化などの業務改善効果が期待できる。

このようにコスト削減を目的として既に導入したソリューションをもう一度見つめ直してみることが重要だ。まだ利用していない機能やサービスを活用することで、コスト削減だけではない効果を発揮できる可能性も十分になる。過去に投資したIT施策をとことんまで使い倒すという発想も不況下におけるIT活用の取り組みとして重要なポイントの一つなのである。

【IT活用での導入/運用コストを軽減するための手段はクラウドやSaaSだけではない】

中堅・中小企業の経営層の多くは自社の業績向上や存続のためにはITの有効活用が欠かせないと考えている。だが、自社の業績が厳しい状況ではIT活用のための原資を捻出することは非常に難しい。そのためユーザ企業は導入/運用にかかるコストを極力軽減したいという意向が強い。こうした求めに応える手段として、近年ではクラウドやSaaSが大きな注目を集めている。確かに、クラウドやSaaSによってコストを軽減できる情報処理システムもある。だが、社内の他システムと連携させるなど簡単に解決できない課題を抱えることもあり、その判断を誤れば逆にコストを増加させることにもなりかねない。

一方、初期/導入コストを削減する手段はクラウドやSaaSだけではない。ソフトウェアパッケージでも月額課金のライセンス体系を採用し、初期負担を減らしコスト平準化に配慮したものが登場してきている。運用面でもインターネット経由でサポートセンターと接続し、ユーザ企業がよりの確かなサポートを受けられるサービスの仕組みをソフトウェアパッケージに組み込んでいる例もある。

つまり、「導入/運用コストを削減する」⇒「所有から利用へと移行する」⇒「クラウドやSaaSを活用する」という図式が常に成り立つわけではないという点に気をつけなければならない。「所有 or 利用」という選択は二者択一のものではなく、上記の例に挙げたように所有の形態をとりつつも利用のメリットを享受することは可能なのである。自社にとって何が最適か？を判断するためにも冒頭に述べた現状把握を進めることが非常に大切だ。

ノークリサーチご紹介

年商5億円以上～500億円未満の中堅・中小企業は国内に約20万社あるといわれています。

しかし、この中堅・中小企業市場に自社の製品やサービスを効果的に展開することは容易ではありません。単に大企業向けの商材を簡易化して提供するだけでは成功しないのが実情です。なぜなら、中堅・中小企業といってもその幅は非常に広く、年商や業種など様々な属性に応じ、実に多彩なニーズや課題をもっているからです。

ノークリサーチは10年以上に渡って、中堅・中小企業におけるIT市場調査の実績を積み、同市場における調査とコンサルティングの豊富なノウハウを蓄積しています。ノークリサーチでは中堅・中小企業におけるIT活用の促進をお手伝いする様々なサービスをご用意しています。

inform@norkresearch.co.jpまでお気軽にお問い合わせください。

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー：<http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>



株式会社 ノークリサーチ
調査設計、分析、執筆：岩上由高
東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
inform@norkresearch.co.jp
<http://www.norkresearch.co.jp/>